



今日は資料館へちょっとタチヨリ！ 令和8年(2026)6月

企画展 **土器ドキモンスター大集合** 6月12日(金) ~8月30日(日)

赤堀歴史民俗資料館一推しの展示資料がキャラクターとなった「土器ドキモンスター」9体が、企画展に大集合する企画展。昨年名前が決まった鶏形ハニワのハニ・ワトリーも登場します。キャラクターのモデルとなった土器やハニワなどを、土器ドキモンスターたちとともに考古学の基本となる「観察」をテーマに楽しく学ぶ企画展です。

## ハニ・ワトリー

私の紹介  
コケ！

## 鶏はどうしてハニワになった？

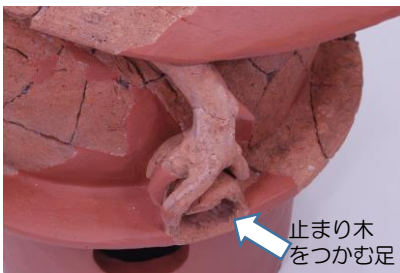
朝を告げる鶏は、太陽を呼び、邪悪を払う神聖な鳥と考えられていました。『古事記』や『日本書紀』の「天の岩戸」では、天照大神が岩戸の中に隠れてしまったため、世界は真っ暗になります。神々は鶏の鳴き声で、天照大神を岩戸から誘い出そうとする話からも、ハニワになった鶏の重要性がうかがえます。下の絵は、「天の岩戸」の物語を江戸時代に描いたものですが、しっかり鶏が描かれています。



歌川国貞 安政4年(1857)『岩戸神楽ノ起頭』 出典：日研デジタルアーカイブス

- モデルは赤堀茶臼山古墳の鶏形ハニワです。
- 男前の雄鶏です。●早寝早起きが得意です。
- 蝶ネクタイがお気に入りです。
- なくしたままだった翼の一部が最近見つかりました。うれしくて体にぬいつけてます。
- 東京国立博物館で暮らすカノジョ(雌鶏)とは遠距離恋愛中です。最後に会ったのは約100年前です。

## ハニ・ワトリーのモデルの鶏形ハニワは足で何をつかんでいる？

止まり木  
をつかむ足

赤堀茶臼山古墳の鶏形ハニワは、止まり木に掴まっているオスの鶏。夜に高い止まり木で眠りからさめ、夜明けに太陽を呼びよように鳴く姿をハニワにしています。鶏は、弥生時代に日本に伝わったとされています。現在でも東南アジアに生息する赤色野鶏は鶏の祖先で、これに近い系統が日本にもたらされたと考えられています。



日本のニワトリの祖先とされる赤色野鶏

企画展  
関連事業  
歴史文化  
講座開催

- ①7月5日(日)「奇跡の発見 上野国佐位郡正倉八角形倉庫跡」講師 市文化財保護課課長 出浦崇さん
  - ②7月19日(日)「王者の棺—上毛野における古墳時代葬制の変革—」  
講師 栃木県埋蔵文化財センター主査 石橋宏さん
  - ③8月2日(日)「埴輪は何を表しているか—一家形埴輪と人物埴輪から考える—」  
講師 明治大学教授・群馬県立歴史博物館特別館長 若狭徹さん
- ・会場 赤堀公民館1階ホール ・時間 午後1時30分~午後3時 ・定員 100人(先着順)  
・申込 6月12日(金)から資料館へ直接もしくは電話または専用フォームから申し込み



申込はコチラ

## 伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 6月は1日、8日、15日、22日、29日が休館日

開館時間：午前9時~午後5時(入館は4時30分) 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030 FAX0270-63-0087 Email: siryokan@city.isesaki.lg.jp 入館無料